

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212P107	看護に共通する基本技術 (Communication and Physical Examination for Nursing)	専門教育科目 基礎看護学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	1	後	木 4・5	佐藤祐貴子、原田千鶴、清村紀子、野上龍太郎、安藤敬子 (福祉健康科学部) 他 内線: 5031 E-mail: haraguti@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】看護技術は、対象者と看護者のあいだで行われる「人に関わる技術」とであるとともに、専門知識にもとづき安全・安楽・自立を目指した目的的直接行為である。本科目では、看護に共通する基本的な看護技術としての、コミュニケーション技術および身体診査技術（フィジカルイグザミネーション）を学ぶ。本科目で修得する技術は、臨床判断能力や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力の基盤となる。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 看護技術の概念について説明できる。	○						
2. 他者とのやり取りを通してコミュニケーション技術を身に付け、実施できる。		○					
3. フィジカルイグザミネーション技術やバイタルサイン測定技術を正確に実施できる。	○						
4. 自己の看護技術を振り返り、看護技術を探求できる。							○

【授業の内容】*スケジュールの詳細は初回コースオリエンテーション時に配布・説明する。

回数	内容	回数	内容
1	看護技術の概念	9	フィジカルイグザミネーション技術② (呼吸器系、循環器系)
2	コミュニケーション技術① (コミュニケーションの基本的知識)	10	フィジカルイグザミネーション技術③ (筋・骨格系、神経系)
3	コミュニケーション技術② (コミュニケーションの実際)	11	フィジカルイグザミネーション技術④ (頭頸部と感覚器)
4	フィジカルアセスメントの概要	12	フィジカルイグザミネーション技術⑤ (腹部、外皮系、腎泌尿器系)
5	バイタルサイン① (基本的知識)	13	看護技術シミュレーション演習 (フィジカルイグザミネーション技術習得)
6	バイタルサイン② (測定技術)	14	看護技術シミュレーションテスト (実技テスト)
7	バイタルサイン③ (実技テスト)	15	
8	フィジカルイグザミネーション技術① (ランドマーク、呼吸器系、循環器系)		

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A: 知識の定着・確認	○	リフレクションシート、小テスト	・対象者/看護者役割の体験、グループワーク、グループ演習、ディスカッション
B: 意見の表現・交換	○	ディスカッション、デブリーフィング、レポート	
C: 応用志向	○	ロールプレイング、実技テスト	
D: 知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	テキスト該当範囲の熟読、テキスト内の動画の閲覧、事前学習課題への取り組み (毎回 1h : 計 15h)
事後学修	授業内容の復習、看護技術の反復練習 (毎回 1h : 計 15h)

【教科書】・茂野 香おる 他：基礎看護技術Ⅰ，第19版，医学書院，2023
・任和子 他：基礎看護技術Ⅱ，第18版，医学書院，2021
・竹尾恵子 監修：看護技術プラクティス第4版，学研メディカル秀潤社，2019。

【参考書】坪井良子他編：考える基礎看護技術Ⅰ 第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2005。

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4
期末テスト	50%	○	○	○	
実技テスト	40%		○	○	
学習成果物	10%				○

【注意事項】*授業前は、準備学修を必ず行ってくる。

- ・清潔に留意し、服装・髪型・爪を整えてユニフォームとナースシューズを着用し参加すること。
- ・防寒用のカーディガンは演習・実習で使用できる専用のものを準備しておくこと。(ジャンパー、コート等不可)

【備考】科目の連絡や課題の提示、資料配布は、毎回Moodleを活用する。(各自で確認すること)

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	看護師：佐藤祐貴子，原田千鶴，清村紀子，野上龍太郎，安藤敬子 他 保健師：安藤敬子	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした、教育内容	臨床での豊富な経験と、熟練の技術をもってコミュニケーション技術や身体診査技術の教授につなげる。	
授業形態	面接授業	